

911.3
八
秋

世
系
秋

士朗樗堂月居蒼虬乙二道彦完來

士朗

樗堂

蒼虬

乙二道彦完來

士朗樗堂月居蒼虬乙二道彦完來

士朗

樗

堂

蒼虬

乙二

道彦

完來

成美并六

道彦

成美

月居

并六

奇洲

素心

卓池

沙鷗

鳳朗

而后

一具葵亭由誓



俳諧新十象類題集秋部

目錄

七月

立秋

初秋

七夕

星合

梶葉

七夕鞠

天川

初月

盆月

盃蘭盆

魂祭

墓祭

灯笼

高灯笼

蓮飯

掃待

施餓鬼

中元

生身龜

刺鯖

踊

相撲

逆宰入

地

藏會

扇置

初嵐

秋風

露

霧

稻妻

六丁

花

女郎花

萩

桔梗

蘭

露草

鼠尾草

紫苑

蓼花

薏苡仁

稻花

蕃椒

西瓜

一景

桐散

柳散

木槿

常山花

虫 十四丁 蚕 鈴虫 蜻蛉 十五丁 線絡 促織 螽
 稻虫 秋螢 秋蠅 秋蟬 蝸 十六丁
 八月 八朔 十五丁 彼岸 駢牽 三日月 月 十七丁
 秋月 待霄月 名月 廿丁 雨月 十六夜 初汐
 秋水 秋雨 廿二丁 秋日 秋雲 秋暮 秋夕 廿三丁
 秋夜 朝寒 夜寒 秋寒 暴風 草花 廿四丁 水
 引花 龍膽 萩 薄 廿五丁 花薄 尾花 萱 雀麥
 葛 廿六丁 雞頭 芦花 芭蕉 芙蓉 八朔梅 秋
 野 落水 廿八丁 秋田 稻 田刈 落穂 粟 綿
 取 芋 案山子 廿九丁 鳴子 鳴芋 初麩 麩



初雁 雁 廿丁 燕歸 鶉 鵲 鷓鴣 四十雀 鳴
 啄木鳥 廿二丁 鳩吹 鹿 鹿笛 廿三丁
 九月 重陽 菊 殘菊 三石綿 廿三丁 后月 紅葉
 草紅景 草實 蕎麥花 天瓜 糸瓜 未
 枯 廿七丁 松露 漆搔 秋山 枏 推 茱萸 杓
 把 授寶 礎 廿八丁 崩築 秋祭 露霜 秋霜
 行秋 廿九丁 九月盡 四十丁

行... 六... 書...
 一... 書... 卷...
 二... 書... 卷...
 三... 書... 卷...
 四... 書... 卷...
 五... 書... 卷...
 六... 書... 卷...
 七... 書... 卷...
 八... 書... 卷...
 九... 書... 卷...
 十... 書... 卷...

俳諧新十家類題集秋部

河内 俳諧壹来報
 浪華 阿里園六齋
 兩編

七月

又月也... 親... 升六

立秋

始... 也... 系... 存... 壽...
 昔... 秋... 顔... 乃... 乃... 樽...
 才... 亦... 亦... 乃... 乃... 樽...
 秋... 乃... 乃... 乃... 乃... 樽...

初秋や二日よるの二日月 升六
初秋は口わらぬもの草子草
初秋ふさ川海老煮る火懸 奇測
初秋はふさ川海老煮る火懸

七夕 星合

七夕は由もあまのこ 我垣根 蒼丸
七夕とせよてわらわし 守
七夕は秋もあまのこ 七中 完本
七夕はあまのこもあまのこ 榎は繁 奇測
七夕はあまのこもあまのこ 七中 完本

三ノ二

初秋は星はあまのこ 七中 完本
初秋はあまのこもあまのこ 七中 完本
星はあまのこもあまのこ 七中 完本
星はあまのこもあまのこ 七中 完本

梶 七夕鞠

少女等よあまのこもあまのこ 月居
梶一葉はあまのこもあまのこ 蒼丸
鞠はあまのこもあまのこ 月居

天川

加茂川上と都にありて川 蒼乳
河少地外 徳もさくもさく川 成英
天竺川 多文うつくさるる 升六
日たうも本 権たさくさく川 奇測
さむらや 飯さくさく川 標堂
天竺川 節さくさく川 士朗

初月

初月 如月 少もさくさく 冠 彦彦
初月 如月 櫛子さくさく 耳 彦彦
初月 如月 櫛子さくさく 耳 彦彦

山 里 如 月 少 多 初 月 如 月 士 朗

盆月 孟蘭盆

盆月 如月 少多 鐘 六 山 完 成
盆月 如月 少多 鐘 六 山 完 成
盆月 如月 少多 鐘 六 山 完 成
一 時 如 月 少 多 鐘 六 山 完 成
う ち 如 月 少 多 鐘 六 山 完 成

魂 祭 暮 泰

う ち 如 月 少 多 鐘 六 山 完 成
桶 如 月 少 多 鐘 六 山 完 成

女房の川菊の油の足巻糸之末
灯籠 高燈籠

松の物にけしきり竹籠や唱為 奇測

山の家は一くさりの竹籠に

竹籠に油なると櫃の那 士朗

高灯籠にきしきり眼かき 成美

心くさても家かきり竹籠 奇測

高灯籠人け死さる運も好 博堂

道飯捕待 施餓鬼

世の生も後さるけしきり竹籠 月居

折竹やいせう儀も 花巻川 升六

折竹や意必る多と多姉友 定来

何姉景に吹るうりありせう記あひ 乙二

中元

竹籠に元甲しり竹籠 升六

生身鬼 刺鱗

生身魂きせはうきり 尾帽子 月居

生身魂松枝一枝 母りきり 奇測

何姉景に吹るうりありせう記あひ 乙二

生身魂きせはうきり 尾帽子 月居

踊

岩橋の夜をくらげのこころ踊るに 升六
京中へはきりくしとをりし
松風如きあり海は二夜きり川 舟遊

相撲

芒のうらやまをきりしとをりし 月居

逆峯入地蔵會

峯入や子本は家と秋はそり 升六
地蔵もやと秋はそりしとをりし

扇置

三ノ五

うらやまをきりしとをりし 月居
子本は家と秋はそり

初嵐

初りし松はさうは日くねり 升六

秋風

青山や三州けらの梅は風 舟遊
接ぎの森とつらう秋の風
土橋はとをりしとをりし秋の風
秋風はそりしとをりしとをりし
屋敷はとをりしとをりしとをりし

露

山を川は素波をれ 林は風、
朝つゆはぬらうちよき馬はさき 青溪
蟻はむく花まき木椋うまの中、
白雲平むつそひ新や表の山、
小藪は傍野すんしうあは雲ひ二
やしうぬらさうあはやんせ律、
朝つゆや生葉まき家はりうき、
あちぬや朝はむはまき新、
夕はゆやい川もあま笛は孔、

三ノ七

田は畦のあまらけいひとまら糖、
あまらけいひとまら糖、
山ふらうあはやうしつゆは露、
おくあはいつまきうあまら糖は玉、
白雲はうんまきあはむのうれ 標堂、
白雲はうんまきうあまら糖は玉、
あまら糖はうんまきうあまら糖は玉、
山守や流ま 捨きうあまら糖は玉、
白雲はうんまきうあまら糖は玉、
松はあまら糖は玉、

士朗

小紫きい 翠 磯 田 村 也 亦 於 本 標 垂

霧

山 小 霧 下 霧 雲 下 士 朗
出 日 此 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下
秋 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下
二 番 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

稻妻

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下
出 日 此 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下
秋 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下
二 番 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

山 小 霧 下 霧 雲 下 霧 雲 下 霧 雲 下

のまろふふ兼よ廣葉はあまの 奇湯

葬

我庵の朝ふけきま又白し 橋妻
一日は釣籠まゝ一花は朝
らさうなはそとくとうつる故郷
葬しや今朝八月十五日乙二
ひやくと朝ふけきま垣根に 士朗
朝さうぬ釣籠まゝ朝ふけ
らさうなはそとくとうつる故郷
葬しは屋よと出た旭うれ 月居

のまろふふ兼よ廣葉はあまの

市井やまつ釣籠は二之悔 蒼丸
らさうなはそとくとうつる故郷
らさうなはそとくとうつる故郷
朝ふけの朝ふけと朝ふけの朝
情はそとくとうつる故郷
老よあはらさうなはそとくとうつる故郷
らさうなはそとくとうつる故郷
らさうなはそとくとうつる故郷
らさうなはそとくとうつる故郷

つらき心をもよほせしを贈う家 奇測
朝ふや人けしきし 秋は美

女郎花

よのこまの吹ぬ風らの人
念仏下又仙つゝあや 女郎花 三彦
伸くもり重なりさうも 女郎花 奇測
きりりー種うねりあきふり
山田ふまうらなれりあきり
きりりーうねりあきふり
くくくあきすきりあきり
月居 奇測

三ノ士

萩

よのこまの吹ぬ風らの人 士朗
念仏下又仙つゝあや 萩は美
伸くもり重なりさうも 萩は美
きりりー種うねりあきふり 萩は美
山田ふまうらなれりあきり 萩は美
きりりーうねりあきふり 萩は美
くくくあきすきりあきり 萩は美

蘇州風情 一枝のすつらさなり 月居
わんわん花のよめく 蘇州の
月と花のささるるの 野暮 升六
桔梗

らさふは午時く 月居 桔梗
光海は蘇州風情や花桔梗 標堂

蘭

あさあさあ アサアサア 月居

蘭は良し アサアサア 月居

露草 蘭尾草

つゆまは アサアサア 升六
つゆまは アサアサア 升六
あさあさ アサアサア 升六
あさあさ アサアサア 升六

紫苑

大風は紫苑 アサアサア 升二

紫苑は アサアサア 升六

蓼花

川 アサアサア 升六

あさあさ アサアサア 升六

後心より唐交りや 家好口二
稲花

近頃のや踏まゝもく 稲花 月居
著るゝや 早小居著 稲花 寿海

蕃椒 西瓜

唐よりし是る林好一さうり 月居
是れらの小窓好小窓唐より 蒼丸
夏と林とあつたはし 西瓜 成美

一景 相散 柳散

相一葉はさうさうのり 蟻好道 寿海

木 槿

一葉はさうさうのり 蟻好道 寿海
散一葉相のり 蟻好道 寿海
相好葉やさうさうのり 蟻好道 寿海
相好や人はいつゝふ 扇おく 道彦
けまはさうさうのり 蟻好道 寿海

一葉はさうさうのり 蟻好道 寿海
夕陽好さうさうのり 蟻好道 寿海
花本槿毎日しむむと 成美
何れも本槿 蟻好道 寿海

さわ〜れ白かまらるる月夜、
ひ〜るをねもつれをね月、
ね月地をぬねくね月、

秋月

稲月白ねくきく入る秋の月 寺伝
小甲山や秋月自え棒 魚、
ねのねませう〜何と秋の月 二
龍イナギのちる背戸山ねね秋の月、
浪〜もね合歌う〜い〜秋の月、
い〜ねねも〜高ね〜秋の月 橋生

分〜れをね〜い〜ね〜秋の月、
出〜るをね〜秋の月、
星〜るをね〜秋の月、
ね〜るをね〜秋の月、
あ〜るをね〜秋の月、
う〜るをね〜秋の月、
ね〜るをね〜秋の月、
し〜るをね〜秋の月、
三〜棒〜るをね〜秋の月、
ね〜るをね〜秋の月、

うつたてくもんくも甲より秋のさ、定本
そは戸もすたハ新けり杖のさ、

待宵月

待しむや海山くくくくくく 升六
待宵や志わくくくくくく 結心、
待宵や三まきくくくく月は雲、
待しむ月もお半とささるり、
待宵はあや祈禱はきくくく人 道彦
待宵や羽まらるる新とすく自非く 奇信
待宵は新くまらるるく 芒りく、

待宵は眼を屈くぬや奉は松、
中川とむや交くくくくくく 定本

名月

名とや桶も鹽もそくぬぬ 成英
名とやあふくくくくくくの人、
名とやうくくくくくく柳くく、
名とやりの志川くくく湖は水、
名とやとたのゆもあや松は風、
名とやわらりまらるくく子は宿、
名とや小笠もあや六面あよ 升六

名もや少一移りては為り
 名もはねと白家好さる
 名もは一ねぬるぬじり
 音は音や名もは心も
 名もはさはけらるる
 名もは父は信牌と書は
 名もはあけらるる
 名もは眼とやまわら秋の風
 名もはさはけらるる
 名もは小端の長堤

三ノ下

名もは少ふや人な
 名もは人なすみら
 名もは傳ふあけらるる
 名もは一ねぬるぬじり
 名もはさはけらるる
 名もはハももあけらるる
 名もはあけらるる
 名もは少一ねぬるぬじり
 人なはねと月人な書け
 名もは少一ねぬるぬじり

士朗
 月居
 蒼丸

と月う出さうとすも秋のそん 士郎
昔もまたさうを思ひさう秋の昔 月居
諸もははるもさうを秋はくれ
とねやふ月さうはるれ秋の昔
我さうの烟ハ人たつたのくれ 茶丸
鳴りさつてさうゆん秋の昔 榎堂
思ひさう人ハさう秋はくれ
月さうは夕さうはいつ秋は昔 升六
秋は夕さうはさうはさう初 道彦
おはさう人の夢も秋は夕さう 榎堂

秋夜

朝寒 夜寒 秋寒

秋は夜ハ山はおくあもまあはひり 士郎
秋は夜はさうさうさうはひり 登丸
音響中秋ハつらつら門は川 升六
秋は夜はさうはさうはさうは 榎堂
朝寒 夜寒 秋寒
朝さうさうはさうさうさうはさう 新法
小海老さうさう火ハさうはさうはさう 登丸
小袴はさうはさうはさうはさうは 成貞
暖哉山や木さうはさうはさうはさう 高橋

秋の生約... 人好... 升六

暴風

妹... 山... 聖... 五位... 什...

草元

人好... 奇俗

あ... 乙二

き... 乙二

ま... 乙二

も... 乙二

水引花 龍膽

す... 成美

あ... 乙二

萩

萩... 橋堂

萩... 士郎

尾花

人住一寺一尾花源 是度
日くわくく日わく寺は尾花
僧くく海くくくは種花は 青尾
山里はくくくく尾花は
朝日くく種花はくく種くく

萱 雀麦

山風はくくくく一萱花は
雀麦は種山出くく秋はく

菅

菅は葉はくくくく一尾花は 乙二

菅は花はくくくく秋はくく 是度

雞頭

雞頭はくくくくくく学はく 青尾

雞頭は葉はくくくくくく

雞頭はくくくく種はくく 是度

芦花

襦子はくくくくくく学はく 乙二

芦は種山出くくくくく 是度

芭蕉

夕月如... 夕月如... 夕月如... 夕月如... 夕月如...

芙蓉

月音... 芙蓉... 月音... 芙蓉... 月音... 芙蓉...

夕月如... 夕月如... 夕月如... 夕月如... 夕月如...

咲出... 咲出... 咲出... 咲出... 咲出...

淋... 淋... 淋... 淋... 淋...

八朔梅

八月... 八月... 八月... 八月... 八月...

梅... 梅... 梅... 梅... 梅...

秋野 落水

梅... 梅... 梅... 梅... 梅... 梅... 梅... 梅... 梅... 梅...

秋田 稻

秋風... 秋風... 秋風... 秋風... 秋風...

田... 田... 田... 田... 田... 田... 田... 田... 田... 田...

山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

稻... 稻... 稻... 稻... 稻... 稻... 稻... 稻... 稻... 稻...

田 刈 落穂

田... 田... 田... 田... 田... 田... 田... 田... 田... 田...

稲... 稲... 稲... 稲... 稲... 稲... 稲... 稲... 稲... 稲...

西之好ハ青丸指下川馬成
ウハセハ東好ホシハ海橋成
粟綿取 芋 二

乃日白也粟う〜り〜は日白也
毎風好練〜り日如つ〜た分
大好子も干〜く敷や芋一頭 道彦
外六

案山子

志う〜く〜く〜く〜く〜く〜く
案山子う〜く〜く〜く〜く〜く
少山〜く〜く〜く〜く〜く〜く
奇屋 二
月居

三ノ廿九

鳴子 鳴芋

く〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く
道彦

鷲好は南〜く〜く〜く〜く〜く
奇屋

ゆ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く
橋堂

子鳥好は川〜く〜く〜く〜く〜く
士朗

秋好は和〜く〜く〜く〜く〜く
二

三日〜く〜く〜く〜く〜く〜く
二

少〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く
外六

鳴〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜く
外六

初 麩 麩

三度写しめ侍風情之月桂葉
夕山とてりよと無へ海麻好く急答丸
麻笛や吹得ぬこころをさしる 定取

九月 重陽

馬好尾とく好形九月昔分秋
けしきも秋風もはるごとく好花
香うらる海好火と葉好もよ
蜂好子のそ好もわさるごとく好菊 道彦

菊 殘菊

三ノ四三

白菊好く〜〜〜〜〜
花好く葉好く〜〜〜〜〜
むらさき身ハ老く好ぬ葉好の祀
こころ好く白菊好名をよむ好あり 月居
花市や白菊好く〜〜〜〜〜
香具山〜〜〜〜〜
人好く系根をよむ〜〜〜〜〜
山椒下秋好をもよむ好花
好く〜〜〜〜〜

士朗

似たりし花のついでに後の月 月居
ほの月夕に花のついでに月
あつたついでに月居の月
あつたついでに月居の月 十三枚 升六

紅葉

松の林に紅葉のついでに月居
庵のついでに紅葉のついでに月居
横のついでに紅葉のついでに月居
あつたついでに紅葉のついでに月居
あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

草紅葉 子実

あつたついでに紅葉のついでに月居

あつたついでに紅葉のついでに月居

蕎麦花

花よりや葉より好むも面白し 升六
葉より好む葉は黄く葉は白く好むは 月居

天瓜 系瓜

紅ハ葉好む葉は白く好むは 升六
木好む下系瓜を好む昔戸の 区美

末枯

昔戸や末枯時好むは味 乙二
う枯れ中ふ多め大河水 月居
う枯れ昔戸より好むは味 区美

う枯や瓦好むは味 善例

川よりや末枯より好むは味

松露 漆撥

松よりや松葉より好むは味 士郎
山好む西日よ好むは味 乙二

秋山

秋山好む先好むは味 升六

家好む河好むは味 升七

木好む久し好むは味 士郎

榜

蜀よりつるあまらむとて 栲林 定本
 山のちやや西日さしあむ栲林 考伝
 里をや栲林本は里の曲り道
 推 菜菓 栲杞 檀實
 奥ひびく推しうもくひのけと 升六
 山ちや菜菓もあつて鳥成し二
 栲杞は実なるをわくをわくや(定) 士朗
 檀は実なるをわくをわく鳴鳥 士二

小夜歌 実れひひくをわくをわく 士朗

三ノ世本

我よりつるあまらむとて 栲林 定本
 山のちやや西日さしあむ栲林 考伝
 里をや栲林本は里の曲り道
 推 菜菓 栲杞 檀實
 奥ひびく推しうもくひのけと 升六
 山ちや菜菓もあつて鳥成し二
 栲杞は実なるをわくをわくや(定) 士朗
 檀は実なるをわくをわく鳴鳥 士二

山崩



望月一毎田上は葉もくつらり 奇俗

秋祭

清神楽や〜〜一度は夢は花

露霜 秋霜

露〜素や〜在はさ〜枕 栲生

秋は〜も〜すや草は振の風

鳥鴨を沢山〜多 秋は霜 奇俗

行秋

行秋は似〜の足さ〜牛は菊 道彦

辻書下^{イニ}留は〜や秋は〜

三ノ世九

行秋は人〜その〜〜〜 升六

行秋は〜鬼は替中は昔也 奇俗

秋は〜言お〜〜おは秋 月居

九月盡

高〜〜富志〜〜の九月尽 升六

俳諧新十家類題集秋部 畢

